

岡山市 コミュニティだより

28号 平成30年3月

編集・発行/岡山市市民協働局市民協働企画総務課

岡山市北区大供一丁目1番1号 TEL (086) 803-1061

「コミュニティだより」 の発刊によせて

岡山市長 大森 雅夫



皆様方には、平素から、市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、コミュニティ協議会の皆様におかれましては、地域活動のリーダーとして、地域の発展や市民福祉の向上に多大なご貢献をいただいておりますことに、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第です。

岡山市では、「岡山市協働のまちづくり条例」のもと、多様な市民活動や持続可能な地域づくりへの機運の高まりを市民協働のまちづくりへとつなげていくため、コミュニティ協議会をはじめとする地域組織や市民活動団体、企業、NPO等の多様な主体が、共に力を合わせて

地域課題の解決に取り組んでいただくことを後押ししております。

こうした中、地域が抱える多様な課題の解決や地域の活性化に向けた活動の拠点として、コミュニティハウスを有効に活用いただいていることを、大変嬉しく、また、頼もしく感じており、皆様方には、今後とも、地域コミュニティの推進にご尽力いただき、より住みやすく、より安全・安心なまちづくりに向け、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。終わりに、皆様方ますますのご健勝とご多幸を、心から祈念申し上げます。



“歌”を柱に楽しく元気に

竜之口 元気が出る会

コミュニティ祭り に参加して

鯉山学区コミュニティ協議会

事務局長 板谷 佐恵子

一昨年転居してきて、本年度からコミュニティハウスに関わるようになりました。

以前は、マンションにいましたが、この地域では、近所の人との関わりが強いことに驚きました。

コミュニティ祭りでは、地域の皆さんが色々な形で関わり、町内会長さんを中心に準備をされる様子から地域に対する思いが伝わってきて、大切に受け継いでいきたいと感じました。

講座の人たちの出し物にも熱が入っており、「宮内踊り保存会」も祭りを盛り上げてくれました。

地域の保育園、幼稚園、学校はポスターや書道の展示で参加してくれ、友達作品や孫の作品が出てると喜んでいただける場面もありました。保護者もバザーで参加したり、若い人た



鯉山コミュニティ祭り

ちの参加も多くあります。

シルアートのコーナーでは子どもたちが楽しそうに作業をしている周りで高齢者の方々が見守る場面が見られ、展示場では、展示参加者による茶菓の接待もあり地域の方たちが和やかに交流していました。

バザーにはたくさんの方が早朝より行列ができるほど集まります。リサイクル交換会や、健康相談の場などは、まだ広がる可能性を感じます。

課題としては、公民館の方が講座もバラエティーに富んで

おり、駐車場も少ないコミュニティハウスでは、最近新しい講座は開設されていません。

講座参加者の高齢化も進んでいて、ステージ発表も人数がそろわないからと今年から参加を取りやめたグループが2つありました。

町内の配布物や回覧板で講座を周知したり募集したりしていく必要を感じました。

また、インターネットやSNSで宣伝するなどよいと思いますし、講座以外の一般参加を考へても良いのではという意見もありました。

汗の結集、 盆踊り大会

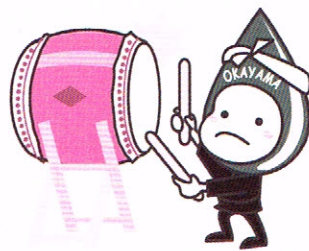
伊島学区コミュニティ協議会

会長 神崎 美佐子

今回で34回を迎えた夏恒例の盆踊り大会が、本年度も無事に楽しく開催することが出来ました。納涼盆踊りと昔は言われていましたが、最近の夏の暑さ

は格別で、町内会をはじめ、中学生、各団体のみなさんの汗の結集で作上げられていると毎年感じております。

少しでも体の負担を減らせるよう時間や方法を考へて行っていますが、多数の方々の協力がなければ何もできません。ご協力いただいた皆さんには感謝しありません。



今は学校でもボランティアに参加することが奨励されているようで、地元の京山中学校の生徒さん達も率先して準備に参加してくださり、年配の人たちの大きな助けとなっています。

当日は消防団の方々により花火が打ち上げられ、PTA、民生委員、公民館、ボランティア等のお店が並び、開会前から楽しんでいただいています。

民謡クラブの方々が幼稚園や保育園で踊り指導を行ってくださっており、小さい子ども達も踊りの輪に入って楽しく踊り、お父さん、お母さんに手を振っている姿はいつまでも心に残ります。

フアジャーノ岡山のフアジ丸くんの参加も楽しみのひとつで、握手をしたり一緒に踊ったり抱きついたりと大人気でした。

このようにみんなの汗をいただいて行われている盆踊り大会が子ども達の心に根付き、家族みんなで楽しんでいただき、いつまでも続いて行われるよう願っています。

最後になりましたが、実施のために賛助金のご協力をいただきました会社やお店の皆様と集金に関わっている町内の皆様にご心より感謝いたします。



夏まつり太伯 2017

太伯学区コミュニティ協議会

事務局 荒尾 弥生

太伯学区コミュニティ協議会の3大事業のひとつ「夏まつり太伯2017」を8月19日に盛大に開催することができました。



夏まつり太伯2017

町内会、子供会、各種団体による工夫を凝らした夜店の出店とともに、和太鼓のはつらつとした演奏、山南ストリートダンス、フラダンス、太伯なでしこ連によるうらじゃ演舞、東浦元気会による盆踊りなどが披露され、総踊りでは、昨年を上回る約1500人の参加があり、大変盛り上がりしました。

クライマックスの福引き抽選会では、より多くの方に景品が当たるよう準備したこともあり、当選された方の名前が呼ばれるたびに歓声が上がり、嬉しそうな笑顔で景品を受け取りに来てくれました。

運営委員さんをはじめとする役員の方々、そして地域の皆様のご協力のもと盛大に終わることができ、地域の絆と交流をより深める夏まつりとなりました。

今後も各事業を通じて地域の交流を深めて活力ある太伯学区コミュニティ活動に努めていきたいと思っています。

太伯小学校校庭を会場として、中心にやぐらを設置し、四隅には児童たちの願い事を書いた短冊も笹竹に飾られ、四方に張られた提灯と児童たちの額行灯が点灯し彩りを添えました。

古都学区敬老会

古都学区コミュニティ協議会

事務局長 小林 静江

古都学区では、毎年9月に学区内の80歳以上の方を対象に「古都学区敬老会」を開催しております。今回はこの敬老会を紹介したいと思います。

本年度は、会場を古都小学校体育館に移して9月24日に開催しました。

連合町内会、各種団体、コミュニティ協議会で実行委員会を立ち上げ、各町内会長が該当者の家を訪問して参加者を募り、55名の方が参加されました。

前日から実行委員で、机、椅子等をコミュニティハウスから運び、会場の設営をしました。が、体育館での敬老会は経験者がいないため、執行部で念入りの打合せを行い、スムーズに進めることができました。

当日は、10時30分から式典が始まり、来賓の方々から祝辞を

頂きました。式典終了後、町内別に分かれ記念写真を写します。

敬老会に華を添えてくれたのは、古都幼稚園のかわいい園児による歌と肩たたきです。

参加の皆さんから笑みがこぼれ、日ごろ離れて暮らしているお孫さんやひ孫さんを思い出された方もおられたようです。

またコミュニティハウスで月2回「日舞の会」の講座で練習されている皆さんに日本舞踊を披露して頂きました。



古都学区敬老会

皆さんで食事をした後解散。手作り感のある敬老会となりました。

今後の課題はありますが、参加した方々に喜んでもらえる会にしていきたいと思っています。

健康寿命を延ばそう

宇野学区コミュニティ協議会

会長 服部 和博

学区の行事開催につきまして、町内会をはじめ各種団体の方々に、大変お世話になっております。

昨年は、学区内に大きな災害はありませんでしたが、町中にイノシシや猿が現れ、何か異変を感じさせる年でもありました。さて、昨年、厚生労働省から発表された平均寿命をご存じでしょうか。

平均寿命とは、0歳児が、想定した条件下で、平均的にあと何年生きられるかという余命のことです。

昨年発表された平均寿命は、男性80.98歳、女性87.14歳となっています。

男性女性とも、香港に次いで世界第2位の長寿国になりました。日本は、まだまだ平均寿命が延びると予想されています。

長寿になった一方で、健康寿命は男性72.14歳、女性74.14歳と予測されています。

問題なのは、平均寿命と健康寿命との差が非常に大きいということです。

健康寿命とは、人が健康に生きていられる期間をあらわしており、平均寿命との差は、男性が約9歳、女性が13歳となっています。

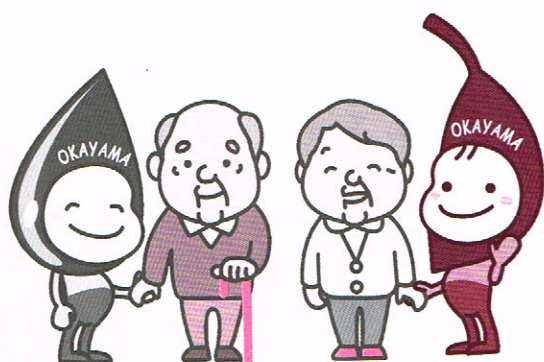
2025年問題をご存じでしょうか。団塊世代の最後の世代といわれる昭和24年生まれの方が、75歳以上、いわゆる後期高齢者と言われる年齢に達する年で、もう8年後に迫ってきています。

3人に1人が65歳以上の高齢者となり、5人に1人、全国で2,400万人の人が、75歳以上の後期高齢者となる年があります。

医療費と介護費が、また、そ

こへ携わる人手不足が大きな問題となっています。

今年は、干支で言うところの戊戌になり、戊戌の年は、変化の年と言われています。10年先を見据えて、進化するための変化の年にしていきたいと思っています。健康寿命を延ばすための対策を、子ども対策も絡めて、地域全体で協力してやっていこうではありませんか。



地域の財産 コミュニティハウス

竜之口学区コミュニティ協議会

会長 高山 学

本会が管理運営するコミュニティハウスは、昭和59年3月末竣工の建物で、間もなく34年の月日が経過します。至る所に経年劣化が目につくようになりました。

ハウスは年間1万人余りが利用し、地域コミュニティの社交場となっています。

多くの方が利用することによって多くの目で見ることにより改善点など利便性に対する意見を数多くいただくことができ、不具合の発見も早く、大事に至る前に応急処置ができるため、安全安心につながっています。

今後もハウスのインフラ整備を進め地域の財産を維持管理して参りたいと思います。

さて、国では「地域共生社会」の実現に向けての政策動向が示されました。

地域共生社会とは「縦割り」

や「支え手」「受け手」という関係を超越して、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すものとされています。

地域住民の様々な課題に地域が「丸ごと」対応できるように、また、住民が地域課題を「我が事」ととらえて主体的に解決に向け取り組めるように、多様な主体が係わっているコミュニティ協議会が結節点となって取り組んで参りたいと思います。

コミュニティ協議会の新規事業として今年度は「お茶会」を行いました。和風で和やか華やかでありました。

また敷地の有効活用を図るため、駐車場の整備を行い、障害者の方をはじめ、皆さんが使いやすい施設になったと思います。継続事業としては、今年も地域文化展を行います。

「牧山コミュニティだより」はじめました

牧山地区コミュニティ協議会

広報部 山本 俊子

「読み応えがあつて発行が楽しい。」「自分が住んでいるところを大切に思っている記事だ。」などなど。

編集部員同士で自画自賛しながら「牧山コミュニティだより」第2号を1月に発行しました。

牧山地区は岡山市街中心部から旭川沿いに北へ進んで約8km辺りから、県道玉柏野々口線とJR津山線に沿って展開する6集落(町内)からなり、「岡山市北区下牧」「同中牧」の町名がつくところ(「牧山の歩み」牧山地区コミュニティ協議会発行より)で、ご多分にもれず高齢化率の高い地域です。

大戸、下谷、中谷、上谷、郷中牧の6町内からなる牧山地区コミュニティ協議会の広報部として岡山市ホームページの電子町内会の牧山地区町内会ページの刷新を平成29年4月より

行いました。

リアルタイムな情報発信と地域外の方へも「牧山の今」がアピールができ、好評をいただいています。

また、インターネット環境のない方や地域住民向けに広報紙で情報を届けようと、年2回(6月、1月)A4版の両面印刷で「牧山コミュニティだより」の発行を企画し、平成29年6月に創刊しました。



編集会議の様子

内容は地域の話題として「〇の一回し」と題して自慢するコーナーや、催し・講習会の報告、牧山地区の将来を考える記

事など盛り沢山です。

年2回の発行なので伝えきれない話も多々あるのが残念ですが、始まってまだ1年。地域の人に喜んでいただける第3号を目指して、今、編集会議は意見沸騰中です。

「牧山地区町内会」とインターネットで検索をしていただくと牧山の美しい自然と人々の営み、そして広報紙の創刊号、第2号を読むことができます。

一度ご覧になって牧山を訪ねてみてください。お待ちしております。

平福コミュニティハウス の1年

平福学区コミュニティ協議会

事務局 小林 泰三

平福コミュニティハウスは、平成16年4月に、水道局が使用しなくなった庁舎を改修し管理を受託したもので、中学校区内にある公民館が遠く、小学校区内に集いの場がないことから、地域の活性を図るコミュニケー

シヨンの場として利用させていた
だいています。

旧庁舎を改修利用しているた
め、通常のコミュニティハウス
とは異なった造りになっていま
すが、平福小学校の近くに位置
し、地域性・利便性もよく、多
くの地域住民が利用されます。

年間の利用申し込みは、3カ
月サイクル（4回／年）とし、
特定講座に偏らないよう配慮し
ており、教育的講座、体力向
上・維持・増進講座、趣味講座、
安全講話、災害対策講座、高齢
者への配食作り、会議、話し合
いの場、未就学幼児のレクレー
ション等、様々な目的で利用さ
れています。

コミュニティハウスでの一番
大きな催し物は、年一回（10
月中旬頃）開催されるコミュニ
ティ祭りでの遊休品のリサイク
ルを目指したバザーで、過去14
回実施しています。

各町内会、個人から物品の提
供をいただき、分別整理、陳列
して破格の安価で販売するため
大盛況を博しており、開場前か

ら長蛇の列が出来るほどです。

また、近くの商店さんの協力
をいただき、新鮮野菜、果物、
婦人会手作り山菜おこわの販
売や、愛育委員会によるうどん
やコーヒーなどを食べながらコ
ミュニケーションを図ります。

このバザーに先立っては、協
議会内の各種団体の協力を得
て、施設内外の樹木剪定、除草、
清掃等を実施しています。

また花壇では四季折々の花を
管理しています。



平福コミュニティ祭りバザー

コミュニティ協議会は、連合
町内会、社会福祉協議会、連
合婦人会、体育協会、交通安全

母の会、民児協会、愛育委員会、
PTA、子供会、親子クラブ、
子育て広場、老人クラブ、中学
校、小学校、幼稚園、保育園等
で構成されておりますが、縦横
の風通しがよく、協力をいた
いて運営を続けています。

コミュニティハウスの 日程管理

福島学区コミュニティ協議会
事務局長 中山 辰広

コミュニティハウスの開設に
あたっては、施設に常駐しない
担当者が、どの様に利用者との
コミュニケーションを取りなが
ら日程を管理すればいいのか、
初めての事なので少々思い悩む
ところでした。

標準的な管理用紙は用意い
ただぎましたが、修正と追加を
短時間で行うには適してないよ
うに思えましたので、近くの岡
南公民館の様子を見させていた
だきましたところ、方式は同様
で1週間をA3用紙で対応す
る形でした。

ネットのカレンダー機能も確
認しましたが現状では月の内の
1日を時間分け表示できるもの
は有りませんでした。

となれば新しく作るしかない
という事で、現在、福島コミュ
ニティハウスで使用している日
程管理を作ったところです。

メインの管理画面はエクセル
で作り、利用者用はグーグルの
スプレッドシートに上げて最新
の状態をネットで確認していた
だく事で、変更と追加の日程の
状態を管理事務から大幅に削
除する事が出来ました。

現状ではメインの修正を行っ
た後にクラウドの修正もしてお
り、二重作業になっていますの

編集後記

今年も皆さんのお手元にコミュニティだよりをお届け
することができました。

ご寄稿いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。
今回の紙面でもご紹介した地域独自のコミュニティ誌
を拝見しますと、新たな発見があり、大変勉強になりま
す。皆様の地域でも、ご発行された際には一部ご恵与い
ただければ幸いです。

今後も皆様の地域でのコミュニティ活動がますます発
展することを祈念いたしまして後記といたします。



で、最終的には全てをクラウド
側で行いたいところですが、危
険性を考えると現状もさほど悪
い事はないと思っています。
許可申請書もエクセルに登録
された利用者データを使用する
事で、すぐに発行する事が出来
るようにしています。

まだまだ改良の余地は沢山あ
りますが一つ一つ改良できれば
と思っています。

近い目標としてはフェイス
ブックのページを通して利用者
の皆さんの活躍をお伝えできれ
ばと思っています。

瀬崎学区 コミュニティ協議会

副会長 二部野 淑恵

待望のコミュニティハウスが竣工してより1年が経過し感慨無量を覚えます。

「集い・つながり・未来を拓く」を合言葉に紡ぎ、大切な家族と安心して自分らしく健康で暮らしていけるよう、何かあったら周りの皆が声をかけてくれて支えてくれる自慢の地区を指しています。



敬老会には町内会、婦人会、社会福祉協議会の協力のもと、84名の参加があり、演芸では、小学生姉弟の艶やかな「お駒

恋姿」と小粋な「雪の渡り鳥」、

祖母の妖艶な「みだれ髪」の舞踊に会場は盛大な拍手につつま

れ、ビンゴゲームでは運試しとワクワク感を味わい、賞品を手に来年も元気で一同思いをかつくしました。

毎月第4金曜日には、女性の集い「四金の会」を発足させ、毎回約40名の方が集まり、お菓子とお茶を味わいながら、腹話術やフラダンス、手品、オカリナ演奏、紙芝居、歌唱などを楽しんでいます。

今年で13年目の生き生きふれあいサロンも会場をコミュニティハウスに移し、花見やゲーム、歌、講話等を楽しみ、毎回昼食に舌つづみを打つ笑顔に励まされます。

また昨今健康づくりに見直されているラジオ体操を5月から行っており、夏休み中は親子の参加で賑やかでした。

季節の移ろいを感じながらの朝のひと時は、連絡、調整の場にもなり、より一体感が生まれています。

迫川学区 コミュニティ協議会

事務局長 大賀 清子

迫川コミュニティハウスが完成し運用を始めて早1年になります。

待望のコミュニティハウス 1年使ってみたよ！

コミュニティ協議会役員の皆様方の努力により色々な事業が計画され実施して参りましたが、どの事業も手探り状態であ

り、地域住民の皆様にもうまく紹介出来たか不安を感じています。今まで行った事業は、地区内

の町づくり推進協議会各部会などを中心に、子ども、若者、青年、高齢者など住民みんなが気軽に参加・利用できる場所の提供を考えてきました。

次に住民同士のつながりの場所づくりとして子どもたちと一緒に「迫川つ子食堂・カレー作り」や手作り朝食の「グッドモーニング」、生活マナーを教える「こども教室」と利用者の範囲を拡げました。

皆さんの趣味や興味にふれる



着物の着付けや和洋の楽器の練習などの「きもの教室」「なかよし広場」「国文学教室」のグループの利用を進め、子ども

たちには季節に合ったイベントとして、「夏休みの勉強会」「クリスマスには三世代交流のパーティー」などを開催しました。

また、地域の町内会の会議や防火避難訓練などでの施設の利用を進めました。

各事業実施については、手探りであり開催してみるまでは参加者が何人になるのか不安で、運用方法等も何から始めていけば良いのか試行錯誤の連続でしたが、実施後の参加者皆様の反響がとても明るく、楽しんでいただいたことが協議会事務局の救いでした。

これからも地区内のみんなが気軽に参加・利用をいただける内容を検討して施設をふれあいの場となるよう願って進めて参りたいと考えています。